

第五回 高一国語

総評

評論、小説、古文、漢文について、苦手な分野を作らず、バランスよく国語の力を伸ばしていきたい。高一の現時点では、古文漢文の学習状況によって、点数の差がつきやすく、今回の模試でもその傾向が見られた。古典で思うように得点できなかった人は、まず、単語の意味や文法事項、句形の知識などの基礎をしっかりと身につけよう。基礎固めがこの先の伸びにつながるので、今回間違えたところはきちんと復習しておくことが大切だ。

問題別講評・採点基準

一 評論

(一) 熟語は、一字でも誤りを含んでいたら不可。(b)「援用」の「援」、(d)「還元」の「還」、(e)「疾患」の「疾」に誤りが目立った。

(二) 「採点基準」

※ a 童謡・唱歌の歌詞の舞台を状況証拠から具象化する試みは、b ほぼ推論でしかないから。"と説明して 10点

* a 7点、b 3点。

まずは、傍線部の「その説明」の指示内容を(童謡(唱歌)の舞台を状況証拠から具象化する試み)とおさえ、具象化するものを(童謡(唱歌)の舞台

(風景や人・場所)などとわかりやすく説明できていたかどうか。次に「その説明」が「脆弱」となる理由を述べればよいが、「童謡や唱歌は抽象的だから」という趣旨の説明は、それにはあたらない。

(三) 誤答では(i)が目立っていた。選択肢前半が問題文の論旨とは異なることを確認しておこう。

(四) 誤答は分散していた。選択肢それぞれの意味が理解できていたか、振り返っておこう。

(五) 「採点基準」

※ a 「心のふるさと」とは、b 無意識のうちに自分は日本人であると自明視することで童謡・唱歌に覚える郷愁ではあるが、c その感覚は個人の体験に準拠しない集合的なものであり、虚構にすぎないから。"と説明して 16点

* a 1点、b 7点、c 8点。

「心のふるさと」とは(童謡・唱歌から感じ取るノスタルジア)で(無意識に日本人と自明視すること)で(感じ取っているもの。それが(個人的な体験ではなく集合的なもの)で(虚構であること)をとらえて説明する。前者あるいは後者の説明に偏ってしまっているのが目立った。

(六) 問題文全体を対象とする内容合致問題である。選択肢が三行と長く、問題文の該当箇所と比較して丁寧に検討する必要があった。

二 小説

(一) 全体的によくできていた。間違えてしまった場合は、語句の意味をイメージや先入観で曖昧に覚えていないか、確認してほしい。

(二) 概ねよくできていた。

(三) 「採点基準」

※ a ありのままの自分ではなく舞妓の姿になることよって左京くんと仲良くなるうとした「私」は、b 卑怯なのではないかということ。"と説明して 12点

* a 9点、b 3点。

「魔法」「シンデレラ」「王子様」の比喩がそれぞれ何を意味するのか、答案内で明示できているかどうかで差がついた。

(四) 誤答では(i)が目立っていた。存在感が薄いことに悩んでいた「私」にとって、「ずっと覚えて」という金子さんの言葉が、どれほど大きな意味を持つのか、読み取りたい。

(五) 「採点基準」

※ a 外見を取り繕うことばかりに囚われるのではなく、b 元々内在している自分の本質を大切にしようとする。"と説明して 12点

* a 4点、b 5点、c 3点。

傍線部の直前に注目し、(自分の本質を大切に

つつ、ありのままの姿を肯定していきたい」という要素はよく押さえられていた。「京都人の精神」の部分にも注目して、〈外見を取り繕うことばかりに囚われない〉点まで説明できるとなおよかった。

(六) 誤答は(㊦)が目立った。本文後半に描かれている、京都の景観についての印象の変化と、「私」自身に対する思いの変化を重ね合わせている部分に注目してほしい。

古文

(一) 活用に関する知識不足が目立つ。活用形も、助動詞の接続を理解していればすぐに答えが出たものもあるので、基礎知識の習得は怠らないように。

(二) (v)「ゆゆしき」の誤りが目立つ。語義だけで(㊦)「不吉な」を選んだ答案が散見された。まずは語義で選択肢を絞るのも大切だが、必ず文脈と照らし合わせて吟味すること。

(三) よくできていた。物語では、人物関係を正しく把握することが読解の鍵となることもあるので、意識してほしい。

(四) ①よくできていた。

②「いくたり」の解釈で迷っただろう。池殿の発言の趣旨も踏まえ〈何倍も〉というニュアンスを導き出せるとよい。

(五) 「採点基準」

「a 頼朝を助けてやれという言葉は、b 大切に思っている池殿の願いなので断りづらいが、c 源氏の嫡子で優秀な頼朝の命を助けることはできないと思っただから。」と説明して
—— 10点

* a 2点、b 4点、c 4点。

〈大切に思っている池殿の願いなので断りづらい〉という要素を欠いた答案が多い。はっきりとした返事ができない清盛の気持ちを、「池殿のましますをば……」からの文脈を踏まえ、説明したい。

(六) 誤答は様々であった。どの選択肢も本文の内容をベースに立てられているので、本文に似たような表現があるからといって安易に選んでしまわないように。

(七) 「採点基準」

「a せめて命だけでも、b 助かったならば、c どうして本来の思いを遂げないであろうか、いや、遂げよう」と訳して
—— 8点

* a 2点、b 2点、c 4点。

まずは逐語的に訳すことができているか、確認してほしい。助動詞や接続助詞、副詞の基本的な訳し方は必ず押さえ、細かい失点をしない現代語訳を心がけたい。

漢文

(一) 思ったより出来が悪かった。

(二) 「採点基準」

「a 齊王淳于髡をして、b 趙に之き(て)、c 救兵を請は、d しむ」と書き下して
—— 6点

* a 2点、b 1点、c 2点、d 1点。

典型的な使役の構文なのだが、出来ていない。

(三) あまり出来ていない。まずは「何敢」の意味に忠実に考えてほしい。

(四) 「禳田者」という誤答が非常に多い。傍線部中の「其」||「禳田者」である。

(五) 「採点基準」

「a 齊王が、b あまりに少ない献上品で、c 楚に對抗できる規模の援軍を、d 趙に請おうとしているから。」と説明して
—— 10点

* a 2点、b 3点、c 3点、d 2点

問題文の趣旨そのものを取り違えていると思われるものが多かったのは残念である。

(六) 「採点基準」

「a 趙が淳于髡に、b 大量の援軍を与えたこと。」と説明して
—— 6点

* a 3点、b 3点。

〈誰が・誰に・何を〉を正確におさえない。